

平成25年度国立天文台研究集会開催報告書

平成 26年 4月 28日

国立天文台長 殿

代表者	氏 名	(ふりがな) やまだとおる		
		山田 亨 		
	所属・職	東北大学大学院理学研究科・教授		
	電話	022-795-6503	E-mail	yamada@astr.tohoku.ac.jp
研究集会名	TMT Science and Instrumentation Workshop in Tokyo			
開催期間	25年10月16日 ～ 25年10月17日			
開催場所	朝日生命大手町ビル 5F会議室 (東京都)			
参加人数	82名			
研究集会の概要	本研究集会「Astronomy in the TMT Era」は、2013年10月18日にTMT SAC会議が東京で開催されるのに合わせて、2013年10月16-17日の2日間、東京駅近くの会議場で開催した。TMTで行うサイエンスケースと観測装置計画についての議論を深めることを目的に、以下の6つのセッションに講演を分類し、それぞれに対して講演と質疑応答を行なった。 - Cosmology - Galaxy formation & evolution - Nearby galaxies, Stars - Exoplanets & star formation - Time domain & polarimetry sciences - 2nd generation instrumentation TMT SAC委員による11の招待講演と、16の一般講演、15のポスター講演から構成された。TMTのパートナーであるアメリカ、カナダ、中国、インドから多くの研究者が参加し、国内の研究者とあわせて82名の参加者が、さまざまなサイエンスケースと観測装置の将来計画について活発な議論を行った。今回の研究集会では、特に若い研究者からの一般講演への申し込みが多く、将来期待するサイエンスケースがTMTにいかにも実現できるのか、あるいはTMTにどのような機能を持たせるべきかを積極的に考えようとする若手の関心の深さが特筆される。 本研究集会後に開催されたTMT SAC会議は、TMT パートナー間の代表者から構成され、主にユーザーとしての立場からTMT 計画の進捗、運営プラン、次期観測装置計画、などについて提言を行う外部団体である。2年前から「community exploration」という名のもと、カナダ、中国、インドと各パートナーで開催されており、2013年度は日本が主催した。この機に併せて本研究集会を開催したことは、相互理解のため、あるいは日本コミュニティの関心の高さをアピールする上でも、非常によかったと考えられる。TMT SAC会議は次期観測装置の主たる選考機関でもある。また本ワークショップに連続して、TMT プロジェクトマネージャのGary Sanders 氏による「巨大プロジェクトにおけるマネジメント講座」を開催し、他波長、他分野の聴講者が参加した。			

研究集会の成果	本ワークショップでは、主に日本の考える独自のサイエンスケース、次期装置開発計画と、それを取りまく課題として、8m望遠鏡や他波長望遠鏡とのシナジーなどを議論することを主目的に、「TMT SAC 会議」に併せて開催した。これまでの他パートナー国におけるSAC 会議がそうであったように、この機会にTMT SAC メンバーとともに、本ワークショップでサイエンスケース・次期観測装置計画を議論することは、日本国内コミュニティの関心の深さと具体的なサイエンスケースと観測装置提案をSAC メンバーに直接訴えることのできる絶好の機会となった。またこうした検討を目的とした研究集会をこれまで国内では開催してきたものの、他のパートナーと共に議論する機会は今回が初めてであり、日本のコミュニティにとっても刺激となったはずである。今後他のパートナー国においても同様の研究集会が開催される予定であるが、日本の、特に若い研究者が積極的に参加し、研究の幅を拡げるよい機会になったと考えられる。 本ワークショップは日本コミュニティがTMT SAC メンバーにサイエンスケースや装置提案などを直接訴えることができる数少ない機会であること、特に若手研究者にTMTの現状を知ってもらうよい機会であること、などから国立天文台協力のもとで日本の光赤外コミュニティが主体となって開催し、その効果が十分あったと評価される。本研究会開催直後に開かれたTMT SAC会議においても、SAC委員から本研究会が非常に意義深く充実した内容だった旨、賛辞の言葉が寄せられた。数年後にも本研究会は日本で開催される見込みであり、TMTに対する日本コミュニティの関心を高め、日本の研究者が直接TMT計画に言及する機会を設ける意義からも継続して開催していきたい。
その他参考となる事項 (希望事項も含む)	旅費支給に関して、TMT推進室の事務による十分なサポートのおかげで、手続きを円滑に進めることができた。若手にとっては貴重な機会であり、旅費補助を国立天文台からサポートしていただいたことに感謝している。またビザの発行手続きについても、国立天文台国際連携室にご協力いただいた。